



大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」
～ 親め合い・学び合い・共に育つ ～

<目指す児童像>

豊かなコミュニケーションの下で、

かしこい子（知） 明るい子（徳） たしまい子（体）

令和7年6月30日 第4号

TEL 663-7005

FAX 663-9886

大砂土小学校 ホームページアドレス <http://osato-esaitama-city.ed.jp/> メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

ある授業から・・・

校長 新堀 栄

1年生の育てているアサガオが大輪の花を咲かせ、2年生の育てている夏野菜が立派な実を付けています。毎日蒸し暑く、既に酷暑が始まっています。今週は晴れ間が続き、九州や近畿地方に続いて梅雨明けも間近でしょうか。いよいよ、明日から7月に入ります。4月からスタートした1学期の授業日数も60日を過ぎ、様々な教科でまとめの学習に入っています。今まで、子ども達は学習や運動、そして様々な行事に懸命に取り組んできました。1年生もすっかり大砂土小学校に慣れ、元気な挨拶を返してくれます。1学期を振り返り、素直で優しい大砂土小学校の子ども達と過ごせたことを保護者の皆様にも感謝申し上げます。

さて、「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く…」とは、作家である「井上ひさし」さんの言葉です。我々学校現場の人間には、特に胸に響く言葉です。この言葉のように児童に教えることができたなら、何と素晴らしいのだろうといつも思っています。

先日、いつものように教室を回っていた時のことです。あるクラスで、算数の授業が行われていました。学習内容は「小数のかけ算」です。

【問題】

1mの重さが2.14kgのパイプがあります。
このパイプ3.8mの重さは何kgですか。



$$2.14 \times 3.8$$

この計算を何とかと解きたい！

2.14	×	3.8	=	□
↓	×	↓	×	↓
214	×	38	=	8132
×100		×10		×1000

→ ÷1000

本時の解き方は、ご存じのように（上記参照）、2.14を100倍、3.8を10倍して、 214×38 という今までに習った整数のかけ算に帰着させ、整数化された積を1000（ $=100 \times 10$ ）で割ることです。この求め方がある児童が説明し、ほぼ全員の児童が「いいと思います」「同じです」「そうそう…」と答え、私が教室を出ようとした瞬間、「おれ、よく分からない！」と別の児童の声がしました。児童の「わからないこと」をはっきりと伝える勇気も素晴らしかったです。そして、ややもすると、教師が再度説明をして（無理やり）終えてしまうのですが、この場面では違いました。教師が児童に、どこが分からないのかを焦点化し、その後は、友達が代わる代わる説明していったのです。決して押し付けや偉ぶることもなく、「小数のかけ算は習っていないから、ここは100倍して…」「100と10をかけると1000でしょ？」「だから、ここは〇〇なんだよ」。このようなやり取りが数分間続きました。そして、次の瞬間、「そうか、分かった！！」と、その子が声をあげました。子ども達が支え合って、みんなで創り上げた授業です。自分の言葉で易しく、しかも深く伝えるためには、かなりの知識量と高い言語力が必要となります。面白くとは、もちろん笑わせるように発言することではありません。易しくても深くても相手が納得するように、そして興味をもてるように伝えることが大切なのだと改めて子ども達から教えられました。

この授業では、教師や一人の児童の発言だけで答えを導いたわけではなく、子ども同士の意見交換で、知識を獲得した瞬間でした。もしかしたら、分かっていると思っていた児童も分かり直しができたことでしょう。そして、確かに子ども達の学びが深まったのです。また、周りから、自然発生的に拍手が沸き起こったことにも感動しました。この10分足らずのやり取りを参観し、何とも清々しい気持ちで教室を後にしました…。